

阪南市埋蔵文化財報告 56

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要 34

2017年

阪南市教育委員会

はしがき

阪南市は北に大阪湾を隔てて淡路島を望み、南は和泉山脈を越えて和歌山県にいたる大阪府下でも自然豊かな環境に立地しています。

高度成長期に始まった開発の波による自然破壊と共に、多くの遺跡が消滅していく中で、本市教育委員会では昭和60年度より国庫補助を受けて発掘調査を続けてまいりました。その結果、これまでに貴重な資料を得ることができ、地道な作業の積み重ねで、地域に新しい歴史の発見がありました。

本書は平成28年の国庫補助事業として実施した発掘調査概要報告書です。今後、多方面において、ご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、発掘調査にあたり、ご協力いただきました土地所有者並びに関係者各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成29年3月31日
阪南市教育委員会



第1図 大阪府阪南市位置図

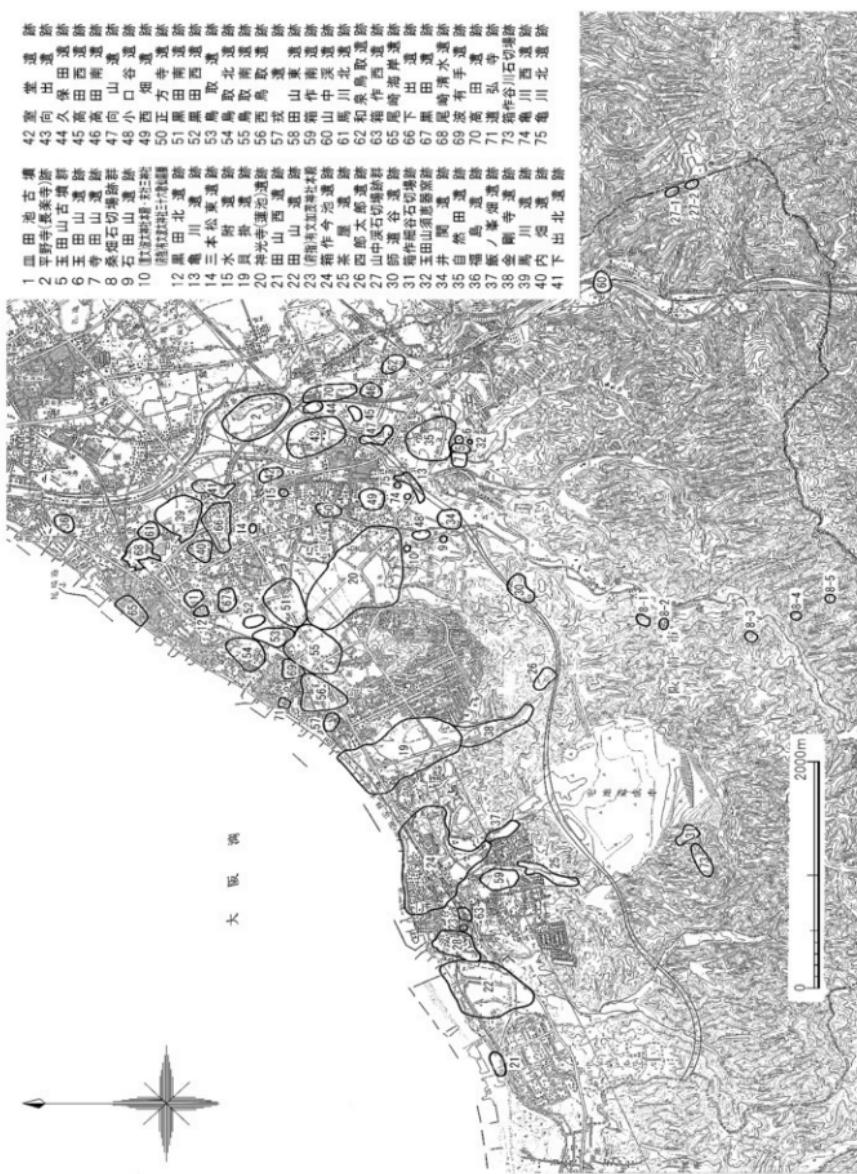
例　　言

1. 本書は、阪南市教育委員会が阪南市内において実施した、阪南市埋蔵文化財発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、平成28年に国庫補助事業として計画、実施した。
3. 現地における調査は、阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室田中早苗、上野　仁、須崎雄一朗(嘱託)を担当とし、平成28年1月から12月にかけて行った。
4. 本書内で示した標高はT. P. (東京湾平均海面)を基準としている。
5. 土層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修 小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』(2000年版)を使用した。
6. 発掘調査にあたっては土地所有者をはじめ、関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
7. 本書における記録は実測図、写真、カラースライド等で保存し、当委員会にて保管しているので、広く活用されたい。
8. 本書の執筆、編集は田中早苗、須崎雄一朗が行った。
9. 発掘調査および整理作業に以下の方々の参加を得た。

杉田正千代、古牧　敬、滑田幸男、菱山良太、山口英介、湯川和彦、
小西　守、和田旬世、井上祥子、井上　進、島田万帆

目 次

第 1 節	鳥取北遺跡	(1) 16 - 1 区	1
第 2 節	西鳥取遺跡	(1) 16 - 1 区	2
		(2) 16 - 3 区	
第 3 節	戎遺跡	(1) 16 - 1 区	4
第 4 節	向出遺跡	(1) 16 - 1 区	5
第 5 節	自然田遺跡	(1) 15 - 1 区	6
		(2) 16 - 1 区	
第 6 節	貝掛遺跡	(1) 16 - 1 区	8
第 7 節	田山東遺跡	(1) 16 - 1 区	11
		(2) 16 - 2 区	
報告書抄録			14



第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1節 鳥取北遺跡

鳥取北遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が実施した埋蔵文化財分布調査により発見された遺跡である。現在までに20件近い調査が行われ、近世期の遺構や中世期から近世期にかけての遺物が検出されているものの大規模な調査は行われておらず、遺跡の性格を把握するには至っていない。

(1) 16-1区 (第3~5図)

調査区は鳥取北遺跡の北部に位置する。調査区内に2.9m×1.4mのトレンチを設定し、調査を行った。

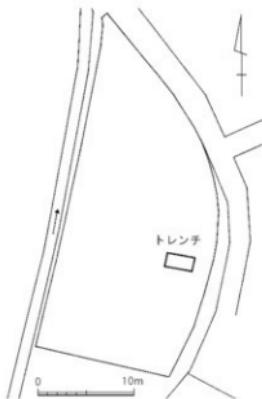
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層2.5Y7/4浅黄色砂混粘質土、第5層2.5Y7/2灰黄色粘質土、第6層10YR6/4にぶい黄橙色砂混粘質土、第7層7.5YR5/2灰褐色砂混粘質土、第8層7.5YR3/1黒褐色砂混粘土、第9層5Y7/2灰白色砂である。地表面から工事で影響が及ぶ約-2.40mまで掘削したが、明確な地山は確認できなかった。

遺物は第4層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、第5層から土師質土器が出土した。第4・5層は中世期の層である。

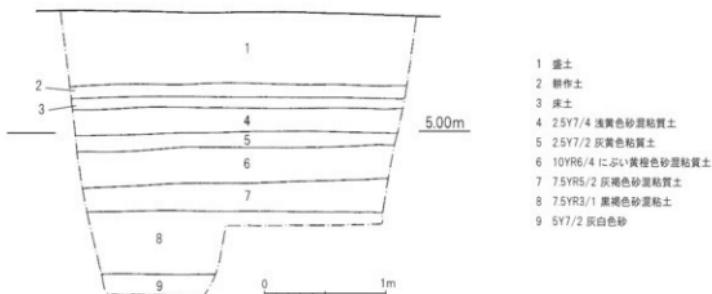
遺構は検出されなかった。



第3図 鳥取北遺跡 調査区位置図



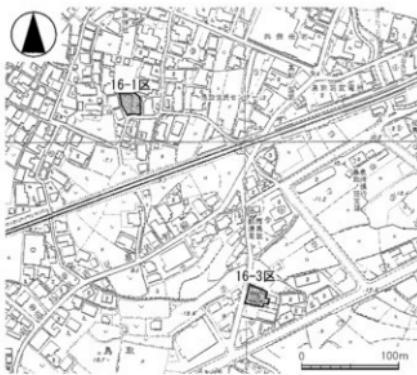
第4図 鳥取北遺跡16-1区 トレンチ位置図



第5図 鳥取北遺跡16-1区 トレンチ北側断面図

第2節 西鳥取遺跡

西鳥取遺跡は市域北部に広がる平野の西部に位置し、北東は波有手遺跡、東は鳥取南遺跡に接し、西側約10mに戎遺跡が所在する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査により発見され、これまでに40件近い調査が行われているが、調査は全て小規模なもので、遺跡の詳細は現在のところ不明である。



第6図 西鳥取遺跡 調査区位置図

(1) 16-1区 (第6~9図)

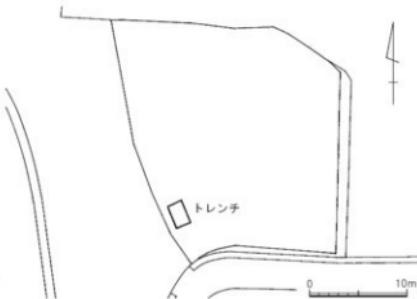
調査区は西鳥取遺跡の北西部に位置する。調査区西端に2.5m×1.5mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層2.5Y7/3浅黄色粘質土、第4層7.5YR5/2灰褐色砂質土、第5層10YR7/6明黄色砂混粘土、第6層5Y7/2灰白色砂混粘土で、第5層以下は地山である。地山は地表面より約-0.55mで検出した。

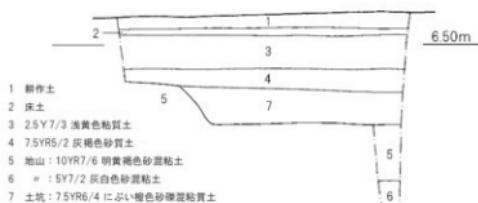
遺物は第3層から須恵器、瓦器、土師質土器、中世瓦、スサ入り焼土塊、第4層から須恵器、瓦器、瓦質土器、土師質土器、陶器、スサ入り焼土塊が出土した。第3・4層は近世期の層である。1は瓦器小皿で、第3層から出土した。

遺構は地山面で土坑を1基検出した。土坑は東西1.40m以上、南北2.00m以上、深さ約0.30mでトレンチ外へ広がる。

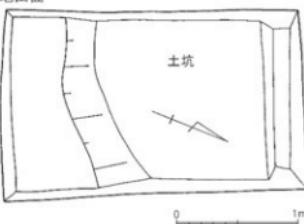
埋土は7.5YR6/4にぶい橙色砂混粘質土で、遺物はサヌカイト片、



第7図 西鳥取遺跡16-1区 トレンチ位置図



地山面



第8図 西鳥取遺跡16-1区 トレンチ平面・断面図

須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、中世瓦、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の土坑と考えられる。

(2) 16-3区（第6・10図）

調査区は西鳥取遺跡の南部に位置する。調査区内に2.6m×1.3mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層は7.5YR 5/8明褐色粘質土の地山である。地山は地表面より約-1.35mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかつた。



第9図 西鳥取遺跡16-1区 出土遺物



第10図 西鳥取遺跡16-3区 トレンチ位置図

第3節 戻遺跡

戻遺跡は海岸線から直線距離にして約100mに位置する。昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査で発見された遺跡である。過去に数件の発掘調査が行われているが、いずれも小規模なもので、遺構も検出されておらず、遺跡の性格等を把握するには至っていない。



第11図 戻遺跡 調査区位置図

(1) 16-1区 (第11~13図)

調査区は戻遺跡の南部に位置する。調査区内に2.5m×1.4mのトレンチを設定し、調査を行った。

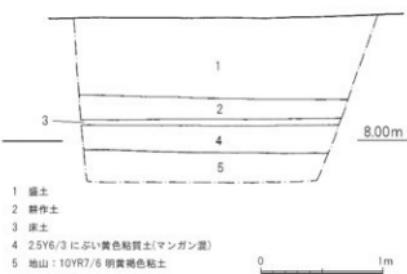
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層2.5Y6/3にぶい黄色粘質土(マンガン混)、第5層は10YR7/6明黄褐色粘土の地山である。地山は地表面より約-1.10mで検出した。

遺物は第4層から土師質土器、緑泥片岩が出土した。

遺構は検出しなかった。



第12図 戻遺跡16-1区 トレンチ位置図



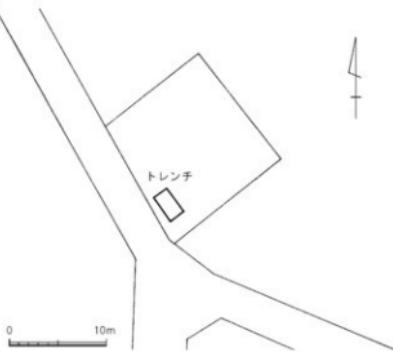
第13図 戻遺跡16-1区 トレンチ西側断面図

第4節 向出遺跡

向出遺跡は、阪南市の東端部を流れる男里川の支流である山中川と菟砥川に挟まれた河岸段丘上とその氾濫原に位置する。昭和62(1987)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された。遺跡は東西約300m、南北約500mと阪南市内では比較的大きい。遺跡の北部は調査件数が少ないため詳細は不明であるが、中央部で行った00-2区と06-1区の調査では、古墳時代中期の堅穴住居が各1棟確認された。南部では、平成9(1997)年に(財)大阪府文化財調査研究センター(当時)が行った国道26号線(第2阪和国道)延長工事に先立つ事前調査で、縄文時代後期から晩期の西日本最大級の土坑墓群が検出されている。また、遺跡の南部からは中世瓦が出土しているものの、寺院等に関連する遺構は、現在のところ確認されていない。



第14図 向出遺跡 調査区位置図



第15図 向出遺跡16-1区 トレンチ位置図

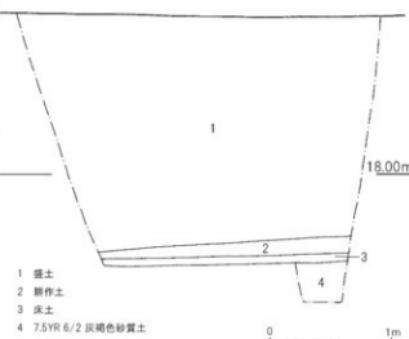
(1) 16-1区 (第14~16図)

調査区は向出遺跡北部の河岸段丘東端に位置する。調査区内に3.0m×1.7mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層7.5YR6/2灰褐色砂質土で、地表面から工事で影響が及ぶ約-2.35mまで掘削したが、地山の検出には至らなかった。

遺物は第4層から土師質土器が出土した。

遺構は検出されなかった。



第16図 向出遺跡16-1区 トレンチ西側断面図

第5節 自然田遺跡

自然田遺跡は男里川の支流である菟田川の右岸に位置し、昭和61(1986)年度の民間開発工事に伴う調査で発見された。その調査で遺構は検出しなかつたが、サヌカイト製の石器や中世期の遺物が出土している。その後に行った遺跡北部の調査では、遺構の検出には至っていないものの、中世期から近世期の遺物が若干出土し、南部の99-1区、05-1区では古墳時代中期の竪穴住居を検出している。

また99-1区からは、多数のサヌカイト剥片とともにサヌカイト製石器が数多く出土している。

(1) 15-1区（第17～19図）

調査区は自然田遺跡の中央部に位置する。調査区内に2.6m×1.5mのトレンチを設定し、調査を行った。

基本層序は第1層盛土、第2層10YR4/2灰黄褐色砂混粘質土、第3層10YR6/6明黄褐色礫混粘土、第4層10YR6/6明黄褐色粘土で、第3層以下は地山である。地山は地表面から約-1.00mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。

(2) 16-1区（第17・20・21図）

調査区は自然田遺跡の西端部に位置する。調査区内に2.6m×1.6mのトレンチを設定し、調査を行った。

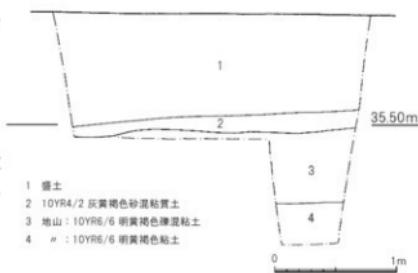
基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層2.5Y5/4灰褐色砂混粘質土、第5層は5Y5/2灰オリーブ色砂混



第17図 自然田遺跡 調査区位置図



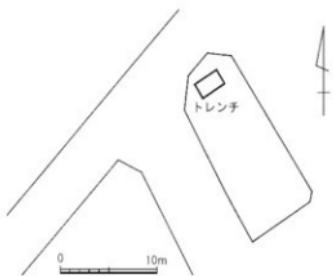
第18図 自然田遺跡15-1区 トレンチ位置図



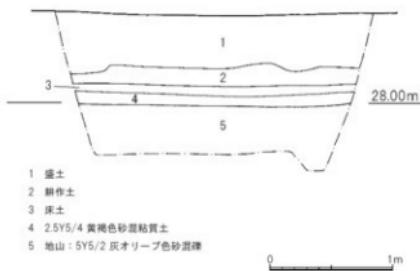
第19図 自然田遺跡15-1区 トレンチ南側断面図

礫の地山である。地山は地表面から約-0.75mで検出した。

遺物は出土せず、遺構も検出されなかった。



第20図 自然田遺跡16-1区 トレンチ位置図



第21図 自然田遺跡16-1区 トレンチ北側断面図

第6節 貝掛遺跡

貝掛遺跡は本市の中央部を流れる积迦坊川と花折川に挟まれた南北に長い谷に位置する。昭和61(1986)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査では、中世期の溝が数条検出されたほか、サヌカイト製石槍や石鎌、土師器、須恵器、瓦器、近世陶磁器等、様々な時代の遺物が確認されている。

また、同年に財団法人大阪府埋蔵文化財協会(当時)が実施した調査では、近世期の建物跡が確認され、文献や絵図等に記載されている同時代の集落「舞村」の存在が裏付けられた。その後、平成元(1989)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った調査により、7世紀前半の建物跡を検出したほか、土坑から金銅製耳環や奈良三彩の八曲長杯等、特異な遺物が出土している。

(1) 16-1区 (第22~25図)

調査区は貝掛遺跡の北部に位置する。調査区内に6ヶ所のトレンチを設定し、全体で43.08m²の調査を行った。

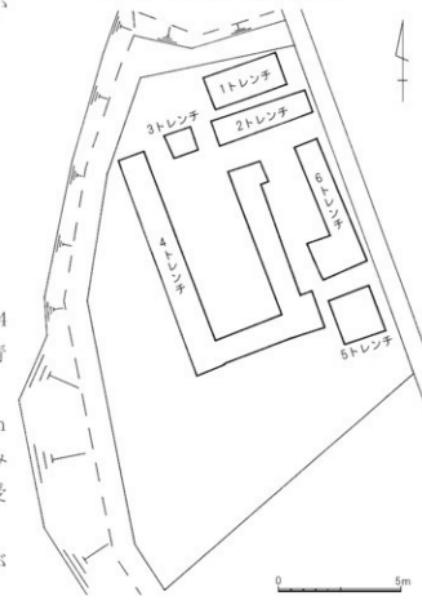
基本層序は第1層耕作土、第2層床土、第3層7.5YR5/4にぶい褐色砂質土、第4層10YR6/8明黄褐色粘土、第5層5B6/1青灰色粘土で、第4層以下は地山である。

地山はT.P.+7.40m~T.P.+7.60mで検出した。第3層は調査区北部にのみ存在し、調査区東部は大きく攪乱を受けている。

遺物は第3層から土師質土器と陶器が出土した。第3層は近世期の層である。

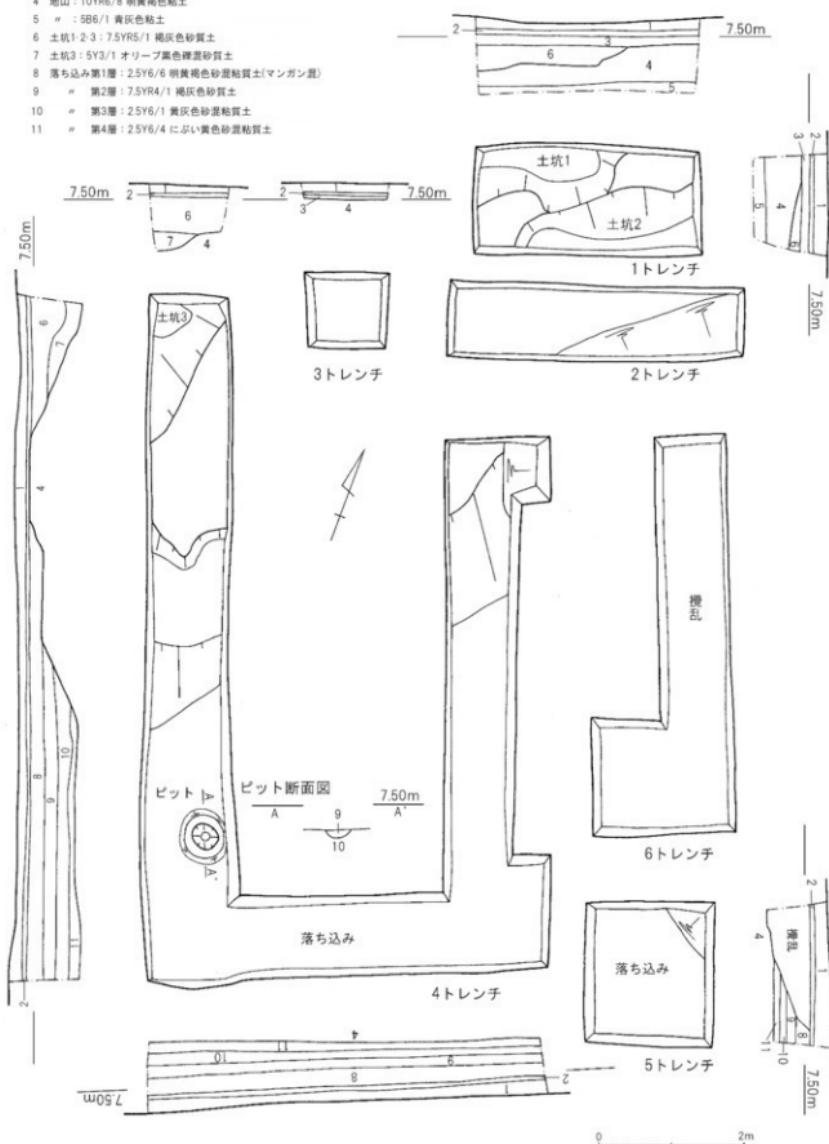


第22図 貝掛遺跡 調査区位置図



第23図 貝掛遺跡16-1区 トレンチ位置図

- 1 農作土
- 2 床土
- 3 7.5YR5/4 にびい褐色砂質土
- 4 地山 : 10YR8/8 明黄褐色砂質粘土
- 5 " : 5B6/1 青灰色粘土
- 6 土坑1-2-3 : 7.5YR5/1 暗灰色砂質土
- 7 土坑3 : 5Y3/1 オリーブ褐色疊层砂質土
- 8 落ち込み第1層 : 2.5Y6/6 明黄褐色砂質粘土(マンガン混)
- 9 " 第2層 : 7.5YR4/1 暗灰色砂質土
- 10 " 第3層 : 2.5Y6/1 黄灰色砂混合土
- 11 " 第4層 : 2.5Y6/4 にびい黄色砂質粘土



第24図 貝掛遺跡16-1区 トレンチ地山面平面・断面図

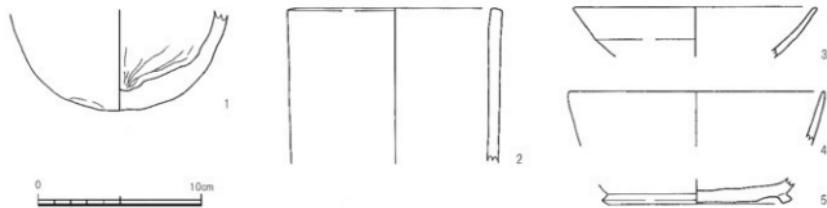
遺構は土坑3基と落ち込み1基、ピット1基を検出した。

土坑1・2は1トレンチの地山面で検出した。土坑1は東西2.20m以上、南北0.90m以上、深さ約0.36m。土坑2は東西2.50m以上、南北0.85m以上、深さ約0.20mを測り、どちらもトレンチ外へ広がる。埋土は7.5YR5/1褐灰色砂質土で、遺物は土師器、土師質管状土錘、轍の羽口が出土した。

土坑3は4トレンチ地山面の北西端で検出した。東西1.10m以上、南北2.00m以上、深さ0.70mでトレンチ外へ広がる。埋土は上層が土坑1・2と同じ7.5YR5/1褐灰色砂質土、下層が5Y3/1オリーブ黒色礫混砂質土で、遺物は上層から土師質土器、近世期の土師質真蛸壺、下層から近世期の土師質真蛸壺が出土した。1は上層から、2は下層から出土した。どちらも内面に布目痕の残る土師質真蛸壺で、土坑1～3はいずれも近世期の土坑である。

落ち込みは調査区中央部から南方向へ下がる。落ち込み埋土の第1層は2.5Y6/6明黄褐色砂混粘質土(マンガン混)、第2層7.5YR4/1褐灰色砂質土、第3層2.5Y6/1黄灰色砂混粘質土、第4層2.5Y6/4にぶい黄色砂混粘質土である。遺物は第1・2層から土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、土師質土器、中世期の土師質真蛸壺、製塙土器、炭化木片、第3・4層からサヌカイト片、土師器、須恵器が出土した。第1・2層は中世期、第3・4層は奈良時代の堆積と思われる。3は瓦器楕で第1層から、4・5は須恵器坏身で、4は第3層、5は第4層から出土した。

ピットは4トレンチ西部の落ち込み埋土の第3層上面で検出し、直径0.38m、深さ0.18mを測る。埋土は落ち込み埋土第2層と同じであるため、遺物は出土しなかつたが中世期の遺構である。



第25図 貝掛遺跡16-1区 出土遺物

第7節 田山東遺跡

田山東遺跡は昭和63(1988)年度に阪南町教育委員会(当時)が行った埋蔵文化財分布調査によって発見された遺跡である。その後の調査では、蛸壺、土錘等、漁労関連の遺物や中国製の青磁、白磁等が出土しているものの遺跡の詳細な性格は不明である。平成6(1994)年度、平成25(2013)年度の調査で中世期の土師質真蛸壺焼成遺構が検出されていることが特筆され、特に平成25年度の調査では8基もの窯が検出された。



第26図 田山東遺跡 調査区位置図



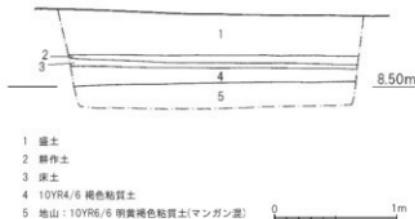
第27図 田山東遺跡 トレンチ位置図

(1) 16-1区 (第26~28図)

調査区は田山東遺跡の西端に位置する。調査は調査区内に $2.5m \times 1.7m$ のトレンチを設定し、行った。

基本層序は第1層盛土、第2層耕作土、第3層床土、第4層10YR4/6褐色粘質土、第5層は10YR6/6明黄褐色粘質土(マンガン混)の地山である。地山は地表面から約-0.60mで検出した。

遺物は第4層から瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺、スサ入り焼土塊が出土した。中世期の層である。遺構は検出されなかった。



第28図 田山東遺跡16-1区 トレンチ北側断面図

(2) 16-2区 (第26・27・29・30図)

調査区は田山東遺跡の西部で、16-1区の東側約45mに位置する。調査区の南東部に $2.3m \times 1.2m$ のトレンチを設定し、調査を行った。

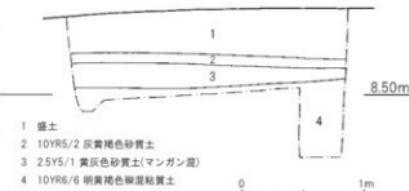
基本層序は第1層盛土、第2層10YR5/2灰黄褐色砂質土、第3層2.5Y5/1黄灰色砂質土(マンガン混)、第4層は10YR6/6明黄褐色礫混粘質土の地山である。地山は地表面より約-0.60mで検出した。

遺物は第2層から土師器、瓦器、土師質土器、瓦質土器、青磁、古瀬戸、焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質管状土錐、古銭、中世瓦、第3層から瓦器、土師質土器、須恵質土器、スサ入り焼土塊が出土した。第2・3層は中世期の層と思われる。1~3は古銭、4~7は土師質土器皿で、4~6はいわゆる白土器。8は瓦質の擂鉢、9・10は土師質管状土錐である。いずれも第2層から出土した。

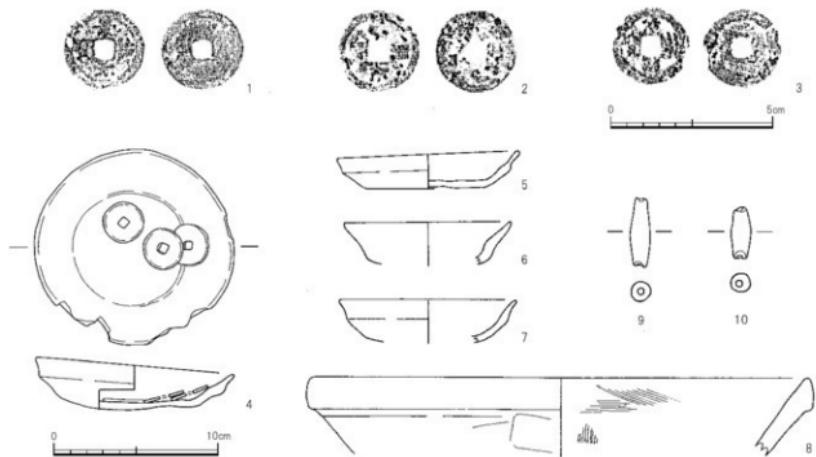
古銭はいずれも北宋錢で、1は景祐元宝(初鑄1034年)、2は皇宋通宝(初鑄1039年)、3は元豐通宝(初鑄1078年)。

これらは4の皿に右から1は表向き、2は裏向き、3は表向きに置かれ、5の皿が蓋として2枚合わさった状態で出土した。

遺構は検出されなかった。



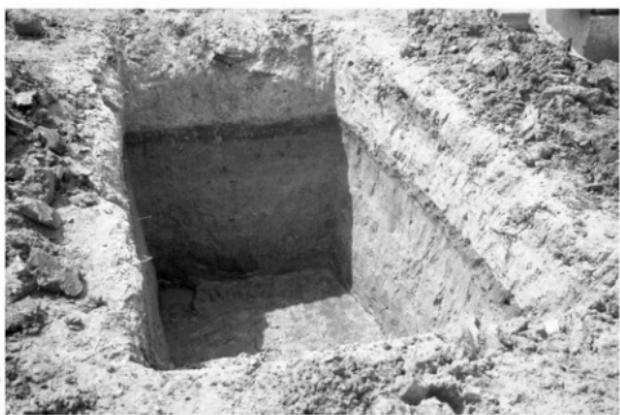
第29図 田山東遺跡16-2区 トレンチ南側断面図



第30図 田山東遺跡16-2区 出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな 書名	はんなんしまいぞうぶんかざいはくつちょうさがいよう34 阪南市埋蔵文化財発掘調査概要34								
副書名									
卷次									
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告								
シリーズ番号	56								
編著者名	田中早苗・須崎雄一朗								
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進室								
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 072-471-5678								
発行年月日	2017年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村 遺跡 番号	北緯 。〃	東經 。〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因		
とつ 鳥取 北	とり 鳥取	とつとり 鳥取	27232	54	34 21 13	135 14 15	20160425 ・ 0426	4.06	記録保存 調査
にし 西	とつ 鳥取	とつとり 鳥取	27232	56	34 20 53	135 13 56	20160421 ・ 0422	3.75	記録保存 調査
にし 西	とつ 鳥取	とつとり 鳥取	27232	56	34 20 46	135 14 01	20161124 ・ 1125	3.38	記録保存 調査
えびす 戎	とつとり 鳥取	とつとり 鳥取	27232	57	34 20 44	135 13 49	20161121 ・ 1122	3.50	記録保存 調査
むか 向	いで 出	とつとりなか 鳥取中	27232	43	34 20 53	135 15 30	20161110 ・ 1111	5.10	記録保存 調査
じ 自 然	ねん 田	じねん 自然田	27232	35	34 20 18	135 15 30	20160212	3.90	記録保存 調査
じ 自 然	ねん 田	じねん 自然田	27232	35	34 20 23	135 15 23	20161101 ・ 1102	4.16	記録保存 調査
かく 貝	かけ 掛	かけかけ 貝掛	27232	19	34 20 31	135 13 36	20161024 ～ 1031	43.08	記録保存 調査
た 田	やま 山	はづき 箱作	27232	58	34 20 14	135 12 30	20160610 ～ 0613	4.25	記録保存 調査
た 田	やま 山	はづき 箱作	27232	58	34 20 13	135 12 31	20161130	2.76	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項	
鳥取北	散布地	中世期		瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺					
西鳥取	散布地	中世期～近世期	土坑	サヌカイト片、須恵器、黒色土器 瓦器、土師質土器、瓦質土器、陶器、土師質真蛸壺、中世瓦、スサ 入り焼土塊					
西鳥取	散布地			土師質土器、綠泥片岩					
戎	散布地			土師質土器					
向	散布地			土師質土器					
自然田	散布地								
自然田	散布地								
貝掛	集落跡	奈良時代 ～近世期	土坑 落ち込み ピット	サヌカイト片、土師器、須恵器、 黒色土器、瓦器、土師質土器、陶器、 土師質真蛸壺、製塙土器、土 師質管状土錐、轆の羽口、炭化木 片					
田山東	散布地	中世期		瓦器、土師質土器、土師質真蛸壺 スサ入り焼土塊					
田山東	散布地	中世期		土師器、瓦器、土師質土器、須恵 質土器、瓦質土器、青磁、古瀬戸 焼締陶器、土師質真蛸壺、土師質 管状土錐、古錢、中世瓦、スサ入 り焼土塊					



鳥取北遺跡16-1区
トレーンチ全景(東より)



西鳥取遺跡16-1区
トレーンチ全景(東より)



西鳥取遺跡16-3区
トレーンチ全景(西より)



戎遺跡16-1区
トレンチ全景(北より)



向出遺跡16-1区
トレンチ全景(南より)



自然田遺跡15-1区
トレンチ全景(東より)



自然田遺跡16-1区
トレンチ全景(西より)



貝掛遺跡16-1区
1トレンチ全景(西より)



貝掛遺跡16-1区
2トレンチ全景(西より)

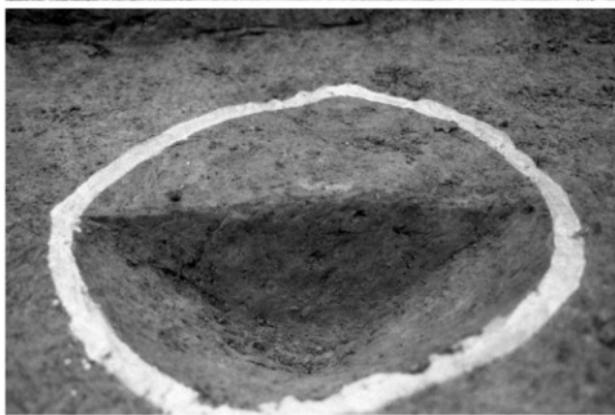
図版
4



貝掛遺跡16-1区
3トレンチ全景(南より)



貝掛遺跡16-1区
4トレンチ西部全景(南より)



貝掛遺跡16-1区
4トレンチ西部 ピット東断面



貝掛遺跡16-1区
4トレンチ東部全景(南より)



貝掛遺跡16-1区
4トレンチ南部全景(西より)



貝掛遺跡16-1区
5トレンチ全景(南より)



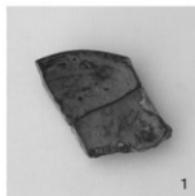
貝掛遺跡16-1区
6トレンチ全景(南より)



田山東遺跡16-1区
トレンチ全景(西より)



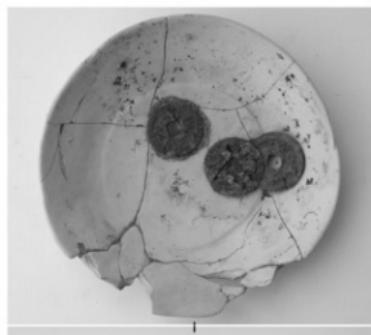
田山東遺跡16-2区
トレンチ全景(西より)



西鳥取遺跡16-1区
出土遺物



貝掛遺跡16-1区 出土遺物



4

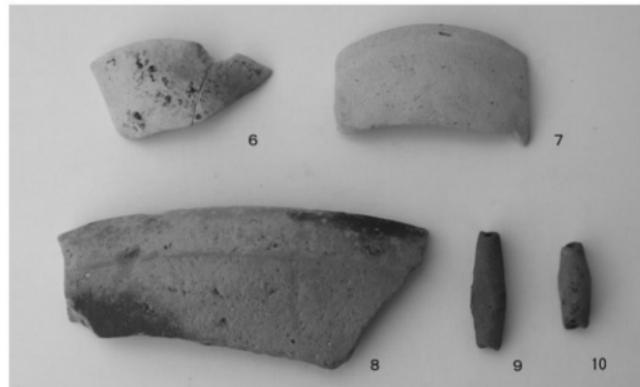


5



6

7



8

9

10

田山東遺跡16-2区 出土遺物

阪南市埋蔵文化財報告56

阪南市埋蔵文化財発掘調査概要34

2017年3月

発行：阪南市教育委員会 生涯学習部
生涯学習推進室
大阪府阪南市尾崎町35の1
印刷者：株式会社 近畿印刷センター